

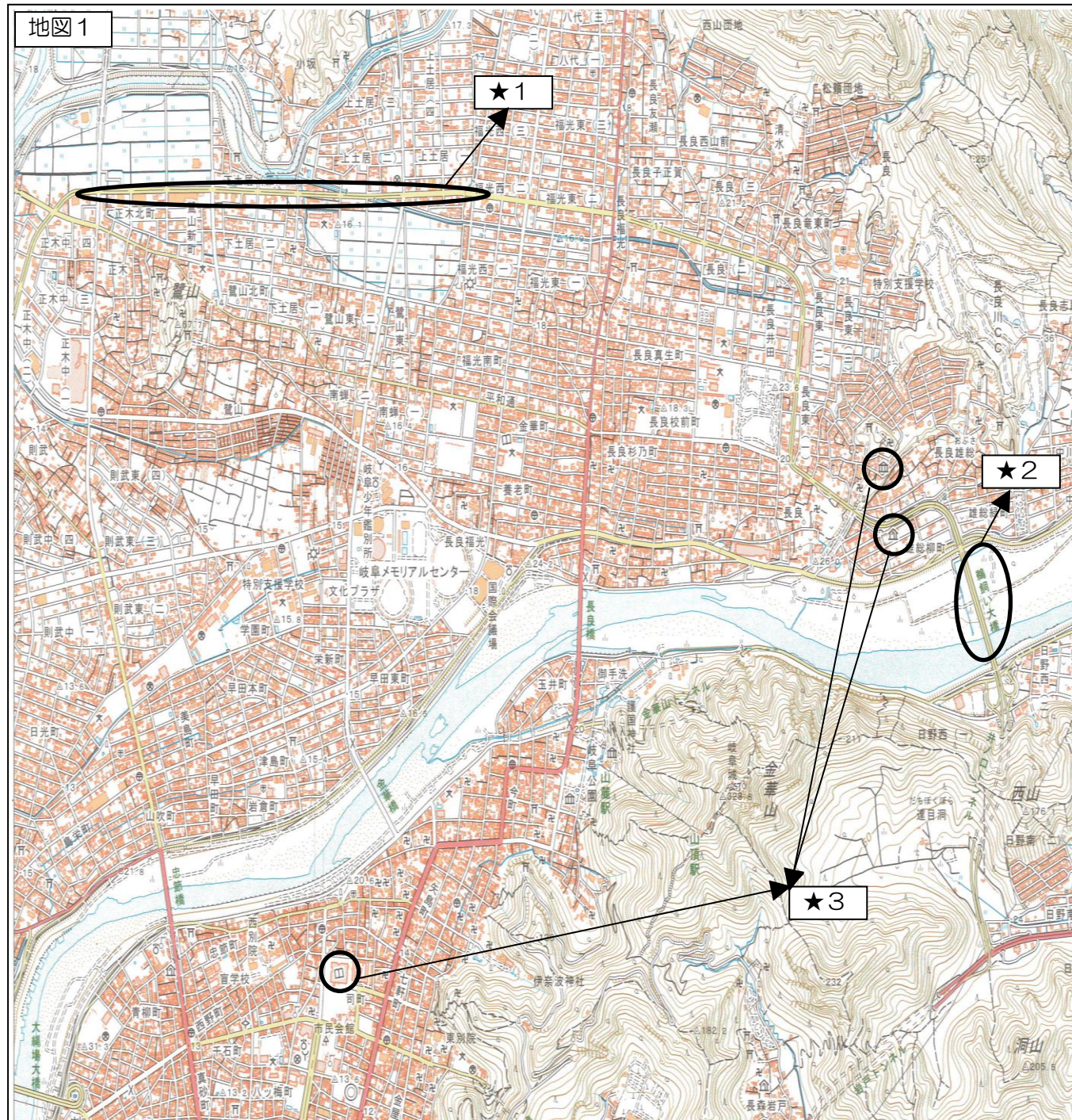
授業で使える当館所蔵地図

No.56 地図1『25,000分の1地形図 岐阜北部』 地図2『25,000分の1地形図 岐阜北部』 地図3『25,000分の1地形図 岐阜北部』

作成年：地図1：2018（平成30）年 地図2：1975（昭和50）年 地図3：2009（平成21）年

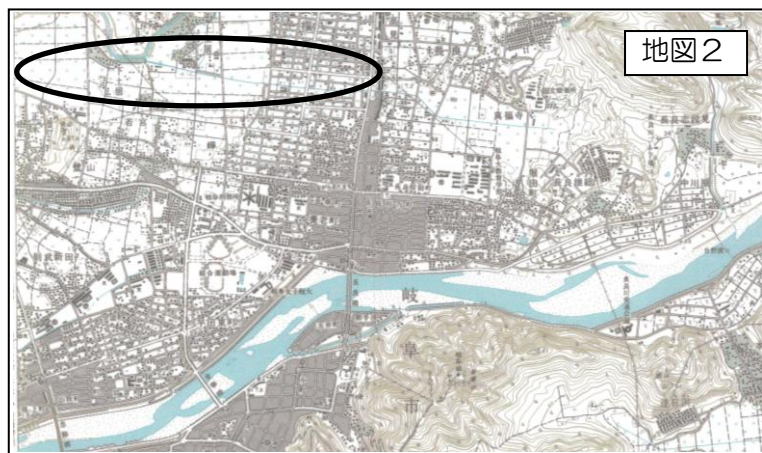
サイズ：地図1：42×52cm 地図2：42×52cm 地図3：42×52cm

作者：地図1：国土地理院 地図2：国土地理院 地図3：国土地理院



【解説】

国土地理院が作製した縮尺2万5千分の1の地形図である。国土地理院が全国整備する最も縮尺の大きな地図であり、わが国の基本図として幅広く利用されている。地形図は、土地の高低を平面図上に等高線を用いて表すとともに、海岸線、川、岸など狭義の地形、およびその名称を表記する。さらに地表面にある、目印になりやすい道路や建物などの人工物、植生などの地表状態、都市・集落やその名称など地表物と地形の位置関係を平面図上に表示している。実際に上の地図を見ても各地に地形の情報や名称、地図記号が位置付いているため、小学校の社会科学習においても十分に教材として活用ができる。



地図2

★1 岐阜県道77号岐阜環状線建設

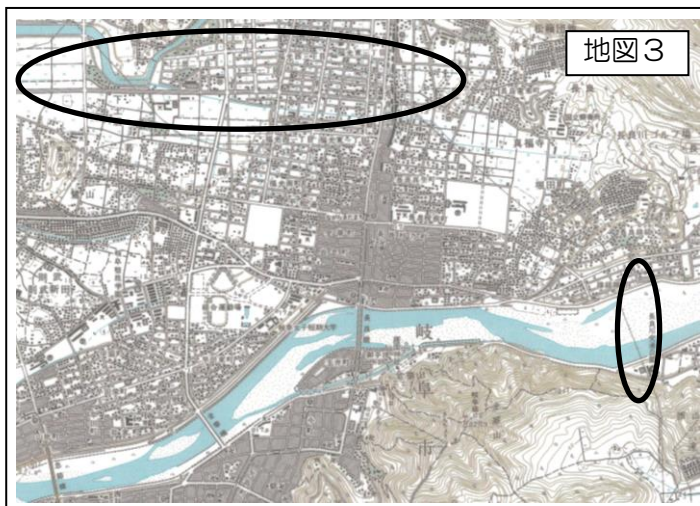
岐阜県道77号岐阜環状線は、岐阜県岐阜市街地を一周する主要地方道である。環状線は、1965（昭和40）年代より建設が始まった。2003（平成15）年の鵜飼い大橋の開通にともない、全長13.6キロメートルが全面開通し、国道21号・156号と合わせて岐阜市中心部の外郭を環状に結ぶ道路が完成した。

左の地図2は1988（昭和63）年に発行されたものである。地図1と比べると、まだ環状線も整備されておらず、周辺の地形も現在のような飲食店などの店は少なく、田畑が多いことが読み取れる。

★2 鵜飼い大橋の建設と街の変化

「鵜飼い大橋」は長良川に架かる長良橋と千鳥橋の渋滞解消として、2003（平成15）年に架けられた。鵜飼い大橋と長良橋の間では、鵜飼が行われており、この橋の外観は、主塔を鵜匠、ケーブルを手綱、橋桁を鵜船に見立てた造りになっている。また、車のライトや橋の照明が鵜飼の妨げにならないよう、車道の脇を高めコンクリートで囲う工夫が施されている。

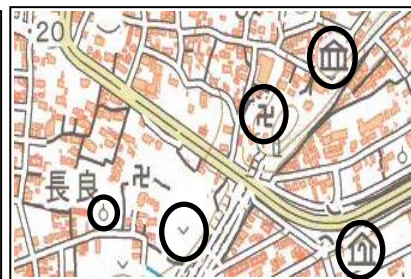
鵜飼大橋の開通に伴い、愛知県方面への移動も容易になり、人々の行動の範囲は広がると考えられる。また、右の1988（昭和63）年の地図3になると、北の環状線も少しずつ着手され始めていることが読み取れる。それだけではなく、道路周辺には住宅街も増え始めている。



地図3

★3 各種地図記号

地形図には地図記号が示されている。こうした地図記号に着目することで、小学校3年生の児童でも大まかな地形の特徴や土地利用の様子をとらえることができる。近年では、2002（平成14）年に博物館と図書館の地図記号が数十年ぶりに新しく加えられた。2006（平成18）年には風力発電用風車と老人ホームの記号が加えられた。この二つは、地図記号を決めている国土地理院が一般から公募し、12万件の中から選ばれたもので、小中学生のアイデアが採用されている。



【利用の例】

○環状線開通に伴う町の変遷を捉えることができる

→地図1を中心資料として提示をする。

- ・「正法寺」や「浄土寺」、「伊奈波神社」をはじめとする寺院。
- ・「七曲」や「百曲」などの登山道。
- ・城下町の町並みや道路。

○身近な地域の歴史に興味関心をもつことができる

→社会科における「岐阜市の学習」「歴史学習」、「総合的な学習」等における郷土学習において、地図で調べたことをきっかけにして、「実際に見てみよう」「もっと調べてみよう」という意欲を喚起できる。

- ・「正法寺」の「岐阜大仏」は今、どんな様子で残っているのかを実際に調べに行く。
- ・城下町の町並みを歩いてまわることで、実際に残るお店や住宅、現代になって姿を変えた建物を自分の目で確かめる。
- ・昔の町の様子について、家族や地域の方に話を聞くなど、調べ学習を行う。